

「つながりづくりを共に」

鶴崎 和宏 会長

(山崎町五十波)



昨年は自然の猛威に翻弄され、その中で人と人との「つながり」の大切さを痛感させられた一年でした。宍粟市社協では第二次地域福祉推進計画「つながりふくしプラン」に基づき、宍粟における新しい福祉のつながりづくりを目指して取り組んでまいります。それには市民の皆様との支援が必要です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「社協に期待すること」

堂場 政彦 副会長

(千種町河内)



近年、私の住んでいる集落も老人だけの家庭が増えて、数年先には、家族だけでは解決できない新たな問題が出てくるのが予想されます。全市的に行きわたった状況の中で、高度な福祉社会の構築が急がれていますが、社協にはその多くを担う力をつけることが急務と考えています。

「福祉への広がる理解が社協の発展」

段林 繁 副会長

(一宮町生栖)



福祉の推進計画で目標が明確になりました。地域における推進活動の原点は、個々人であり、夫々が「何ができるのか」を理解することです。関係機関とのつながりをもって、自分に出来る事を実践することが住民主体のまちづくりと思います。計画の推進管理に努めます。

「心のアンテナを張り巡らせて」

前野 真弓 理事

(山崎町西町)



震災のあと見直されたものが「地域社会の中でのつながり」と「人と人が支え合うこと」の大切さです。住み慣れた地域での安心出来る生活が、笑顔と元気を生み、生きる力となっていく…。心のアンテナを張り巡らせて、孤立される方がないように、努めていきたいです。

「気負わず、まず近くのつながりから」

安積 盛久 理事

(二宮町曲里)



援けを必要とする人は日ごとに増えております。そんな中、いよいよ、「つながり」をキーワードにした「第二次地域福祉推進計画」実践のスタートです。宍粟市全域にまたがる福祉に関する共通課題への取り組みが、各所から湧き出する「つながりの源」となり、目指す福祉活動の大きな流れとなって広がりますよう、尚一層のご支援をお願いいたします。

2012年の宍粟市社協

理事の新春メッセージ

キーワードは

つながり

「隣近所へ一秒の実践!!」

山根 勝 理事

(波賀町安賀)



地域や人と人との「つながりふくしプラン」の基、日頃から一秒の実践に努めましょう。○おはよう（あいさつ） ○ハイという返事（応答） ○ありがとう（感謝の心） ○すみません（素直な心） ○どうぞ…（謙虚さ）そして、ほほえみを!! また、心をつなぐキャッチボール（あいづち、うなづき）、受け手が大切です。言葉をつなぎ、心をつなぎ、笑顔をつないで、福祉の心をつなぎましょう。

「感謝の心で扶け合い つながりふくしプランを」

金本 一二 理事

(千種町西河内)



小地域での扶け合いは昔から日常的に行われており、家族や地域の中で、お互いが感謝の心を育て、慎みをもって扶け合う中に、どのような課題も解決していくと思う。先ずは夫婦親子が仲良く楽しく暮らすことが、小地域福祉の原動力になり、つながりふくしプラン推進の足がかりとなると思う。

「皆で考え参加する地域福祉活動を！」

尾畠 美佐子 理事

(千種町河内)

